

街の活力は
自立と創造から

あのまちこの街

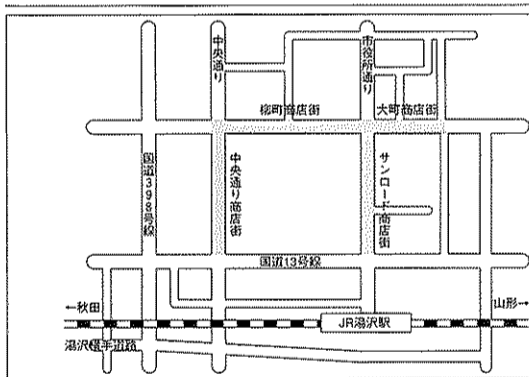
編集 北海道商店街振興組合連合会
「あのまちこの街」編集委員会
札幌市中央区北1条西2丁目



湯沢市(秋田県)の中心商店街

駅前サンロード、柳町、中央通り、大町の4商店街

湯沢市(人口約三万五千人)は秋田県南部に位置し、東洋は奥羽山脈に連なる栗駒国定公園、西方は出羽丘陵が張り出す山地に囲まれている。南北に貫流する一級河川・雄物川に沿う平坦な盆地に形成された緑豊かな田園地帯である。昭和二十九年三月に湯沢町・岩崎町・山田村・三関村・弁天村・幡野村が合併。翌年に須川村を編入し、雄勝地方の行政、経済、文化の中心として発展した。雄勝平野を背景にした農業が基幹産業となっており、代表的な地場産業は酒造業で「東北の灘」といわれる。また家具・工芸など木工業、近年では電気



大町商店街の延長にある柳町商店街



「犬っこまつり」の像は柳町商店街にある

コラム

約九百年前の応徳年間(一〇八四〜一〇八七)後三年の役に敗れた七人の侍が落ち延び山から山へさまよって、ついに野原に小さな池をみつけた。ぬるま湯だったので喉を潤すだけでなく、体を洗ったところ、旅の疲れがたちどころに回復した。夜を明かした一行の枕元に神様が現れ、美しい野原を照らした。息をのむような光景に、この地を拓けと御心を悟り、七人は力を合わせて開拓。この地を「湯原」と呼ぶようになった。湯原のちに西南方の松沢も戸数が増えたのでこれを併合して「湯沢」と呼ぶようになった。酒どころ湯沢は「東北の灘」と称され美酒の里として名高い。現在は七社八工場で酒づくりが行なわれ、中々でも両開酒造は蔵などが文化財に指定されている。

「まちの顔」の一新に成功

活性化策を官民一体で推進 街区ごとにイメージづくり

昭和50年代、近代化に着手 2年前に全体の事業が完了

生まれ変わった商店街

中央通り商店街では昭和四十九年一月「協同組合湯沢市中央通り優良会」を発足。活動の基礎づくりはできた。昭和六十二年には「近代化推進実行委員会」を設立し、近代化に向けた動きを開始した。平成元年八月から商店街診断を開始し、同四年には「中央通り商店街振興組合」を設立。翌年から事業がスタートした。具体的には都市計画併用パターンとして「三・四・十三・中央通り線」の拡幅街路事業で幅員を七メートルから十六メートルに拡幅した。また三・五の歩道幅員では、歩車道分離に



中央通り商店街はドイツ風街並みを実現



「NEOロマネスク」をコンセプトに整備された大町商店街の店舗



片側アーケードが連なる駅前サンロード

個性が光るそれぞれの街路

大町に続く柳町商店街では、メインテーマを「克雪空間発信地」とし、北本通りと南本通りに分けられる柳町本通りの様々など、楽しい工夫を凝らした。街路灯の放送設備からは、鳥の「やまどり」のさえずりが聞こえ、四季ごとに装飾が施される。電話ボックスにも「やまどり」と市の花「ダリヤ」(伝統的「まなこ風」をデザインしたおしゃれなアルミ鋳造製の装飾)が施され、街路の個性が際立つ。いずれもエクステリア性の高いストリートファニチャーとなっている。歩道は三大祭りをカラー陶板にした。そのうちの「犬っこまつり」は約三百六十年の伝統を誇る。

活性化へ思い切った改革

長い歴史の中で文化・伝統を育み、都市機能が集積した中心市街地。しかし空洞化が深刻化してきた近年、総合的対策を講ずることにした。湯沢市では平成十年度に国で制定された「中心市街地活性化法」を受け、基本計画を策定、商工会

多機能カードでサービス

中心市街地活性化法に基づいた基本計画に先行する形で、湯沢夢カード事業組合(組合員七十五人)が「電子商取引連動型ICカードシステム開発事業」に取り組んだ。平成七年にスタートした「ゆざわ夢カード」は、加盟店約百店、会員数約二万八千人で市内一世帯当たり一・五枚の普及率である。各加盟店の端末機をI・SDN回線で接続させ、ポイントサービスやプリペイドの五十五倍の情報を記録でき、また灯油宅配やクリーニング店の配達時に自宅までポイントサービスを受けることが可能になり、ポイントで現金として利用できるようにした。記録容量をアップしたことで旧カードの五十五倍の情報を記録でき、

この犬っこをシンボルにした犬っこ像を市民プラザの前に建立。心なごむ憩いのスペースを設置した。豪雪地帯とは思えない積雪の少なさは、ここでも活躍している「無散水消雪」のおかげ。舗装体の中に埋設した放熱管を地下水が通っており、効

率よく路面の雪を解かず仕組みだ。駅前通り商店街協同組合(サンロード)は昭和五十三年に設立され、同時に近代化事業にも着手した。四年後の完了までに実施したのは、アーケードやカラーブロック、収容台数百十台の木造二階建ての駐車場である。

選定した重点プロジェクトとこれらを推進するためTMOを設立した。(中心市街地活性化法)の情報は次号で紹介する) 加盟店が独自のサービスを展開できるようにになった。新旧カードの早期交換及び新機能のPR・販売促進のため国や県の助成金を活用。二年がかりで開発した。平成十二年二月にICカードへの全面的切り替えを実施した。十一日間にわたるリニューアル記念セールは好評で、特にポイント五倍セールの日五日間には来客数・売り上げともに大幅に伸びた。